

公共施設再配置（更新素案）についての地区説明会における質問及び回答（西中学校区・R6.6.27開催）

No.	大項目	項目	質問内容	回答要旨	備考
1	再配置の方向性	25%削減の目標設定	令和50年度までに延床面積25%削減時の試算は？	今ある施設を全て維持するための費用(将来更新費用)の74億円の試算については、194施設について例えば30～40年経つと必要になる大規模改修や10～20年で生じる設備更新費用、本当にダメになって建て替える際の費用を足し、全部足すと1,928億円、1年あたり約74億円となります。あと20～30年経つと色々な施設を建て替えなければいけなくなります。その場合74億円、場合によってはもっと掛かるような物を建てていかなければならない状況です。現在用意できている財源が約40億円でとても収まりきらないため、どうしていかなければならないか検討し、延床面積換算で25%まで削減する必要があると試算しています。実際に再配置更新素案の中でこの施設をこうしていこうという検討を積み上げ、25%削減という形になっていきます。詳細は市ホームページで公開している「公共施設等総合管理計画」に計算結果がありますので、御確認いただければと思います。(総合管理計画P43・P44)	
2	再配置の方向性	その他	築年数のカウントの仕方について、西中は築39年となっているが私は50年前に今の校舎で学んだ。中央小は築16年となっているが、新校舎は築10年くらいではないか？	複数の建物や施設の築年数を平均した年数をお示ししています。面積で加重平均したものを表示しているため、棟別の築年数と違いがあるということです。	
3	再配置の方向性	小中学校の再編	西中学校区（小学校・中学校）Ⅲ期統合・複合化を検討とあるが、主たる施設はどの様に決定するのか。現存する施設を活用するのか、新築するのか。	現状でこの場所と決めているものではありません。学校再編や複合化につきましても、施設をお使い頂くのも地域の皆さまになりますので、どこかを現時点で決めるものでなく、その時の状況も踏まえ1つにするか、2つにするかといったことも皆さまとご相談しながら、検討を深めていきたいと考えています。	
4	再配置の方向性	その他	統合・複合化の検討時期の中に様々な異なる更新時期のある場合はどのように施設整備をする考えか？	例えば西中学校区の地域生涯学習センターや学童保育所は、学校再編時にどうしていくか併せて検討していきたいと御説明しました。例えば中央小学校と西南郷地域生涯学習センターはだいぶ新しい施設ですので、学校再編の時期にまだ使えるのに壊して統合するかというと、場合によってはそうしたこともあるかもしれません。逆にもう少し早く耐用年数を迎える建物もあります。なるべく長期間保つように管理しますが、実際にそこまで保たせられるかは状況によると思います。その辺りも踏まえ、色々な形が考えられますが、地域の皆さまが主役ですので、時期到来時に御相談しながらどういった方法が一番良いか検討していければと考えています。方向性を持ちながら耐用年数等も踏まえて考えていければと思います。	
5	再配置の方向性	小中学校の再編	学校、耐用年数がⅡ期（曾我小学校、第二小学校）で検討時期がⅢ期では検討時期が遅いのでは	学校再編を同時並行的に進めていくのは困難なため、現中学校区ごとの課題（施設老朽化、児童・生徒数の増減等）を踏まえて再編の検討順を設定しています（学校再編計画P18）。曾我小につきましては耐用年数がⅡ期に到来しますが、長寿命化ということで80年持たせるような改修をしていくことを考えております。なるべく長く持つようにして時期を合わせるような管理をしていきます。	

No.	大項目	項目	質問内容	回答要旨	備考
6	再配置の方向性	公共施設の立地	現状の施設の耐用年数からの再配置となっているが、それまでの年数における人口分布との関連が見えない。また、ハザードマップからの居住者の移動を含めて再配置は検討されないのか？	今後の人口増減・人口分布等も踏まえた検討は必要と考えています。その点も含め、実際の再配置の検討時に、地域の皆さまとご相談しながら進めていきます。	
7	再配置の方向性	官民連携の推進	民間に譲渡し、民間が経営破綻したらどうなるのか。継続性は維持できるのか	市の事例の中でシートピア・ならこの里の事例を取り上げましたが、仰るとおり民間譲渡したがすぐ辞められてしまうのでは意味がないと考えており、健康ふれあい館は温泉機能、ならこの里はキャンプ場を続けて頂くことを条件に建物を譲渡しています。仮に続かなくなった場合は返して頂くという契約の中で、万一経営が上手くいかなくなってどこかに売られてしまうというリスクがないような対策をしています。	
8	再配置の方向性	個別施設の方向性	葬儀場、ゴミ処理場、病院等が含まれていないがどう考えるか	左記の施設は掛川市も関係する施設ですが、菊川市との組合や袋井市との企業団の持ち物（施設）になりますので、今回は市単独で保有する施設として一覧表を作成しています。	
9	再配置の方向性	個別施設の方向性	各地区の公民館、公会堂がいずれも近い将来耐用年数がくるが、人口減少等のなかで建て替えが難しい。地区の学習センターへの統合、地区の学習センターへの役割の再検討等を含めて考えるべきではないか	仰るとおりで、そのタイミングが今回で言うところの学校再編に伴うところです。多くの地域生涯学習センターは小学校と隣接して建てられていますので、施設についてはそのタイミングで考えます。施設を利用しているまちづくり協議会や地域の方々にとっても、役割を考えていく必要があると思います。施設は一緒にするけれど、コミュニティとしては一緒にならないという選択肢もあるでしょうし、もしかしたら一緒になった方が良いということもあるかもしれませんので、その段階で同じように検討していただければよろしいかと思います。	
10	再配置の方向性	個別施設の方向性	具体的に、センターはどうなるのでしょうか。統合されて、例えば中央小や西中に集約されるのか。地域学習センターを中心としたまちづくり協議会はどうなるのか	現施設は、使用できる間は安心して御使用して頂けるよう安全管理をし、耐用年数が到来する第Ⅲ期の小中学校再編時に新しい施設の中に新しいコミュニティを作るか作らないのかということを検討させて頂きたいと思っています。ただ、使える施設は安全に使って頂くということも皆さまと協議していきたくと考えています。	
11	再配置の方向性	防災	公共施設と防災の関係はどう考えているか？能登の地震を踏まえ、土地の特性による分断（山と町と海）をどう考える？	市内30の小中学校を広域避難所としていますが、再編によって統一校になった場合は、その統一校を広域避難所とする予定です。それ以外の廃止する小中学校につきましては、皆さまの御要望を踏まえつつ、その場を広域避難所として残すか、あるいは更地にして避難場所にするのか、御意見頂ながら進めていきます。 能登と掛川市は状況が若干異なり、掛川市は縦横と複数の道がありますが、能登は1本の道しかなく、状況は若干異なると考えています。それでも孤立地域の発生は考えられますので、孤立地域と考えられる7か所の広域避難所に備蓄を増やしていきたいと考えているところです。	